

御隨身褐衣、垂袴、壺胡籙、前駟廿人、二人右大臣殿、青色闕腋御袍、唐例下襲、黑半臂、浮文表袴、打袴、張袖飾、劔代、有文御帶、魚袋、御靴、中納言、中將、每事同前。

〔平治物語〕信賴信西不快事

其比少納言入道信西ト云者アリ、山井三位永賴卿八代後胤、越後守季綱孫、鳥羽院御宇、進士藏人實兼ガ子也、儒胤ヲウケテ、儒業雖不傳、諸道兼學シテ、諸事ニクラカラス、九流百家ニ至ル、當世無雙ノ宏才博覽也、○中内宴、スマフノ節、久ク絶タル迹ヲ起シ、詩歌管絃ノ遊ビ、折ニフレテ相催ス、

〔續世繼三内宴〕かくてとしもかはりぬれば、○中廿日、保元三年正月ないえんおこなはせ給も、とせあ

まりたえたる事を、をこなはせ給、よにめでたし、題は春生聖化中とかやぞき、侍し、關白殿など、かந்தちめ七人、詩つくりてまいり給へる、あをいろのころも、春の御あそびにあひて、めづらかなる色なるべし、舞姫十人、れうき殿にて、袖ふるけしき、から女をみる心ちなり、ことしはにはかにて、まことの女はかなはねば、わらはをぞ、仁和寺の法親王性、奉り給ける、ふみをば仁壽殿にてぞ、かうせられける、尺八といひて、吹たえたるふえ、このたびはじめて、ふきいだしたりと、うけ給はりしこそ、いとめづらしき事なれ、

〔百練抄後白河〕保元三年正月廿二日、被行内宴、長元七年以後、歷百廿三年、今被興行、一昨日依雨延

引、關白忠通、藤原并太政大臣實行、已下爲文人、

〔類聚國史七十二歲時〕平城天皇大同四年正月戊戌、曲宴奏樂、賜四位以上被、

淳和天皇天長八年正月乙未、於仁壽殿内宴、令賦春妓應製詩、日暮賜祿有差、

九年正月乙卯、皇帝和、淳於清涼殿内宴、獻詩者十三人、有御製、賜祿有差、

承和元年正月辛未、主上内宴於仁壽殿、教坊奉態、中貴陪歡、殊喚五位、已上詞客、兩三人并内史等同

賦早春華月之題、

内宴例